

各委員からの意見等を踏まえた第二期仙台市自殺対策計画への反映について

- ・目指す状況を実現するために必要な状態について、第 1 回自殺対策連絡協議会での各委員の意見を踏まえ、以下の通り、社会全体のレベル、身近なコミュニティ（家庭、職場、学校、地域等）や対人関係のレベル、個人のレベルの 3 つに分けて整理した。

各委員からのご意見

- ・ SNS の活用や夜間帯の相談、居場所と一体となった相談など、利用しやすい環境を整える必要がある [小関委員]
- ・ 悩みに応じた適切な相談窓口につなぐことができるように、支援者を教育すべき [鹿野委員]
- ・ 市民が相談窓口ファーストコンタクトした際、適切に対応できることが重要 [田中委員]
- ・ 悩みに応じて適切な窓口につなぐことができるよう、モデルケースを関係機関間で共有できるとよい [永井委員]
- ・ 自殺未遂や希死念慮があった場合に、多機関ネットワークで対応できることが大切 [井口委員]
- ・ 勤労者のストレスチェックを踏まえた個別対応ができる機関はあるが、必要としている人にきちんと届くことが大切 [高橋委員]
- ・ 地域の官民協働によるネットワーク構築が重要 [田中委員]
- ・ 困りごとが生じないよう、社会全体を生きやすいものとしていくべき [森田委員]

- ・ 市民に対するメンタルヘルス等に関するリテラシーを十分に普及することが自死抑制につながる [鹿野委員]
- ・ 若年者について、悩んでいる人の不調への気づきや声かけの仕方、相談機関へのつなぎ方を丁寧に伝えていく必要がある [小関委員]
- ・ 学校では、人とのつながりの心地よさや多様性の尊重を促す関わりが重要である [小林委員]
- ・ 勤労者については、メンタルヘルス対策やハラスメント対策として発生予防に向けた取り組みが大切である [高橋委員]
- ・ 若い勤労者が自信をもって働くことができる職場づくりを進める必要がある [藤岡委員]
- ・ 職場の管理職が、若年の勤労者の特性を踏まえた対応を学ぶことが大切 [藤岡委員]
- ・ 困ったことが生じる前に、心の拠り所と思えるような居場所があることが、予防支援につながる [小野委員]

- ・ 市民に対するメンタルヘルス等に関するリテラシーを十分に普及することが自死抑制につながる [鹿野委員] (再掲)
- ・ 若年者については、自分自身の不調に対する気づきやセルフケアの大切さ、困った時の相談窓口に関する啓発を行うことが有効と考えられる [小関委員]
- ・ 勤労者については、自分自身のセルフケアを学んでもらうための取り組みが大切 [藤岡委員]

目指す状況を実現するために必要な状態

社会全体のレベル

- ・ 自死の要因となり得る多様な問題に対応できる相談窓口や支援の体制が十分に整っていること
- ・ 自死の要因となり得る多様な問題に対応する支援職員の能力が十分に高い状態が維持されていること
- ・ 自死の要因となり得る多様な問題に包括的・具体的に対応できる多機関ネットワークが構築され機能していること
- ・ 自死の要因となり得る悩みや困りごとが生じない環境が整っていること

身近なコミュニティ(家庭、職場、学校、地域等)や対人関係のレベル

- ・ 身近なコミュニティにおいて、自死の要因となり得る多様な問題に対する適切な理解が十分浸透すること
- ・ 様々な悩みや困りごとを抱えた人への適切なサポートや対応を学び、身近なコミュニティにおける危機対処能力が向上すること
- ・ 身近なコミュニティのメンバー同士の支え合いや同じ悩みを抱えた者の交流や分かち合いが促進されること

個人のレベル

- ・ 人を自死に追い込む差別等の社会的な問題や自分自身のセルフケア、健康維持(精神的、身体的)に関する適切な知識の習得や理解が促されること
- ・ 様々な悩みや困りごとに対応できる相談窓口に関する情報が届き、実際の活用が促されること
- ・ 人を自死に追い込む社会的な問題に対する対応方法の習得や実際の対処が促されること

目指す状況

重点対象を含む市民の誰もが自死に追い込まれることのない仙台

自殺者数の減少「自殺死亡率の減少」